

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 20日		2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2024年 12月 20日		2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7 (1名休職中)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせた、丁寧な個別支援	個々の発達に合わせた療育を行うことが基本であるが、個別対応することで、より丁寧な療育が行うことが出来ている。また保護者への丁寧なフィードバック対応にて信頼関係もしっかりと確立されている。	小集団の活動を組み合わせることで、多面的な視点でのアセスメントが可能となる。個々の課題をよりクリアにすることで、更に充実した療育を目指す。
2	校舎職員の多様性	保育士、心理士、社会福祉士など、また外国籍職員も教育や心理士の資格を持っており専門的アプローチを行っている。更に日本語の療育だけでなく外国籍職員によるポルトガル語での療育も行っており、個々の必要性に応じて併用した言語の療育対応も行うなど、言語の多様性にも対応している。	個々の職員のスキルアップを目指して、本部開催の研修などへ積極的に参加していく。また、事業所単位での勉強会を引き続き行っていく。自己研鑽のため、個人的に通信教育にて勉強を行っている支援員もいる。
3	施設環境と送迎対応	施設建物が元コンビニのため駐車場が広く主要道路に面しており、車での保護者送迎に便利である。また教室以外にホールスペースがあり室内での運動遊びが可能。自宅から自宅、学校や保育所など個別のパターンに合わせ送迎対応している。	安心安全に利用できるように環境の整備に配慮していく。また、スムーズな送迎になるようにカリキュラム調整していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所認知度の低さ	事業所母体は大きく全国的展開になっているが、地域での認知度が低い。相談事業所の業務を併設していないためサービス利用の依頼を受ける状況である。今まで、請け負い待ちの姿勢であり、積極的な営業を行ってこなかった。また関係機関とのやり取りも電話が主となっていた。	各相談事業所への営業と信頼を得るような関係性の構築を目指す。地域の機関との交流や会議参加を行う。保育所訪問等の対象機関を増やし、保育所や学校との関係性を深め信頼関係を築いていくことで、信頼できる事業所としての認知度を上げていく。
2	個別支援ゆえの療育時間の短さ	個々の発達の状況に応じた個別支援であり、子どもたちの集中できる時間を考慮すると1時間弱とどうしても短時間の集中療育となるが、近年は終日働く保護者も多く、長時間の療育を希望する保護者も多くなってきた。	長時間、小集団のカリキュラムの実施。スポット的な実施から限定曜日であるが常設に移行していく。
3	施設建物の古さと道路に面した立地	施設建物が古く、トイレ設備などがバリアフリーになっていないが、賃貸物件にため大幅な工事等は不可能。また、交通量の多い道路に面しており、飛び出しの危険を含んでおり、駐車場スペースでの外遊びが出来ない。	トイレ設備など、対応できる範囲で使いやすいように工夫していく。施設への出入り時の安全に配慮しながら、近隣の公園などを利用した外遊びを工夫していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校					公表日	2025年 2月 15日				
					利用児童数	31		回収数	27		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	27	0	0	0		法令を遵守したスペースを確保しています。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25	0	2	0		人員数は法令遵守しております。お休みで他の職員が担当する場合もございますが、ご理解の程よろしくお願いたします。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	0	2	0		平屋構造でバリアフリーのホールに面した教室で出入りがスムーズ。トイレや非常出口の案内表示もよく見える位置です。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	1	1	0		支援開始前に毎日清掃・消毒を行っております。			
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	0	0	0					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27	0	0	0					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27	0	0	0					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	1	0	1		必要な項目を適切に選択され計画しております。具体的に分かりやすい内容を記載し、支援に必要な項目について丁寧に説明していきます。			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27	0	0	0					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	2	0	1		好きな活動を繰り返すことで自信に繋がったり、活動が広がるケースもあります。また、狙いが違う場合もあり、その都度意図を説明していきます。			
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17	3	4	3		個人情報保護の観点から、施設の開放や地域交流は行っていません。			
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	0	0	0					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27	0	0	0					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	4	7	4		10月にお母さんのためのコーチングの講演会を行いました。家族支援につながる講演会を引き続き企画して行きます。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	16	4	7	0		利用時以外にも、LINEやFacebookにてごまめな連絡を行っており、体調等子どもの状況を把握しています。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	1	0	0		フィードバック時に療育内容を丁寧に伝えたり助言しています。また年に1回はアセスメントを兼ね聞き取り面談を行っています。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24	1	2	0		保護者様の思いに寄り添いながら支援していきます。			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	22	0	0	5		今まで保護者会の機会が無かったが、秋に日本人保護者に向けた講演会を行いました。2月には外国籍保護者の交流会を行う予定です。言語の負担なく楽しく参加できるように様々な企画対応していく。			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	4	3	4	面談の希望がある時は、速やかに日程調整して対応しております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	2	1	2	外国籍の保護者様には翻訳のツールを利用してまいっております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	0	0	1	行事予定や活動の様子などブログやFacebookにて発信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	0	0	0	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	1	0	2	各マニュアルは策定され、訓練も行われています。再度、保護者様への周知に努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	4	5	3	非常災害などに備えた避難訓練を毎月行っております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	9	5	3	安全計画が作成され、定期的に点検を行う等により安全を確保している。再度、周知に努めていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	4	3	1	ケガ等、何かあれば直ぐにお伝えいたします。また送迎対象者には送迎先の保育園等へもその旨を引継ぎしております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	3	2	0	安心して利用できるように職員との関係性を深めるよう努めていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	0	1	0	楽しく利用できるように、また満足した支援になるように努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	1	0	0	楽しく利用できるように、また満足した支援になるように努めてまいります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」鈴鹿校	公表日	2025年 2月 15日
------	-------------------	-----	--------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	6	元コンビニの建物。パーテーション等で区切り個別の空間(教室)を作っている。個別療育のため指導員と1対1(2名)に対するスペースは十分。	個別療育1対1(2名)に対するスペースは十分だが、パーテーションで区切り完全個室ではない為、他教室の声や音が聞こえる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	教室番号の提示。元コンビニの構造上、床はバリアフリーの状態。和式トイレを様式カバーで対応している。	古いタイプのトイレスペースがバリアフリーではない。様式カバーが冷たく感覚過敏に対応していない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	毎日の消毒、清掃活動。机、マットなどの備品で個別に合わせて対応しています。	ホールでの運動遊びは、床が硬くクッション性に欠けている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	4	個別対応の教室は5室。小集団で遊べるホールあります。	完全個室は1室のみ、利用時間が重なり対応が難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2	5	外国籍職員とのコミュニケーションが難しいが、こまめにミーティングを行い、業務改善に向けた意識付けを行っています。	PDCAサイクルについての理解と周知を徹底していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者様へ評価表の記入をお願いし、業務改善につなげています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員間の情報共有のため、こまめにミーティングを行い、話しやすい環境、関係性に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	現在は利用者・社内の2者評価を取っております。	第三者による外部評価については、現在実施の予定はありませんが、今後必要に応じて社内で実施を検討してまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	3	定期的な本部主催の研修があり積極的に受講している。また事業所単位の(研修)勉強会なども行っている。	本部主催の研修にポルトガル語での対応が無いため、事業所単位のものを以外に参加できていない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムについて適切な方法で公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		アセスメントを行い、本人の状況や家族環境を確認して計画を立てております。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		モニタリング、事業所内担当者会議と支援員間で課題について検討しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	3	計画作成は担当職員を主に事前に話し合い、課題について共有しています。外国籍利用者には母国語での文章も追記しています。	指導員においては、支援計画に関連した書類の理解を徹底していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		統一されたアセスメントシートを使用して、毎年アセスメントを行っています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		必要な項目が適切に設定されています。保護者様にも分かりやすい様に、より具体的に内容を記載しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		日頃から活動内容について活発に意見交換が行われています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		楽しく参加できるように、工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		曜日限定での小集団活動。また同時間の利用者間で交流を兼ねた小集団遊びも適宜に行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		その日の利用者を確認して役割分担や予定を確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		担当支援員以外にも、気になった様子や気付いたことなど声かけあっています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援記録はチェックされ徹底して行われています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		6か月に1回モニタリングを行い、見直ししています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児発管を基本に担当支援員が参加できる時には参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		連携は常に意識的に行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		保育所等訪問支援を実施しており、関係機関との連携は常に意識的に行っております。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		移行前の会議に参加して神殿の様子や支援内容など情報の共有を図っております。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	—			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	—			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	—			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		常に連携を取っています。必要時には相談して助言をいただいています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		個人情報保護の観点から、関係機関や利用者関係者以外についての地域開放は行っていません。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		支援後のフィードバック時に子供の様子について丁寧に伝えています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			ペアレントトレーニング等の研修について検討していきます。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に丁寧に説明を行っています。収入や年齢による負担変更もあり、随時丁寧に説明対応しています。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		子どもや保護者の思いに寄り添いながら進めています。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		支援内容について説明を行い、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		フィードバック時には支援の様子や子育ての助言などを行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7	今まで機会が無かったので、秋に日本人保護者に向けた講演会を行い、2月には外国籍保護者の交流会を企画。言語の心配なく参加できるように企画しています。	行事の日時設定が難しい。終日働いている保護者も多く、定期的に保護者の会を開催したいが難しい状況。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談等の申し入れには、速やかに面談の調整を行い対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		ブログやFacebookにて随時、情報提供を行っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報の書類は、鍵付き書庫に保管しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		利用者様、保護者様の母国語に応じて適切に意思疎通や情報伝達を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7	関係機関としての交流、情報の共有を行っている。	障がい児施設を利用していることを口外したくない保護者に配慮して、関係者以外の事業所招待はしていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルを作成し、研修や訓練を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		BCPを作成し、内容に基づいた訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		契約時などに、フェイスシートにて聞き取りを行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		支援では食事やおやつ提供は行っていませんが、契約時に聞き取りしたり、イベントでの食べ物提供では再確認しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に沿って毎月の訓練や点検を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		訓練の様子などをブログ等にあげて周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットが起こった時は報告書を作成して回覧し、職員間で情報を共有して再発防止に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		マニュアルを作成して、研修を行っています。県主催の研修にも参加しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束に関しては契約時に重要事項説明書にて説明を行っています。行う必要が生じた場合は新たに十分に説明を行い計画に記載します。		